

令和5年度 特別養護老人ホームふるさと事業報告

【基本方針】

「団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う」

【年間目標】

2階・3階フロア

- ① 感染症や災害への対策強化
- ② ケアの内容を充実させ、利用者にとってよりよい環境を整える
- ③ 職員の介護技術・知識の向上
- ④ ご家族や地域住民の方に愛され選ばれる施設づくり
- ⑤ 悔いの残らない看取り介護の実践

ショートステイ

- ① 感染症や災害への対策強化
- ② サービスの質の向上
- ③ 接遇のスキルを学び、身につける
- ④ 利用者・家族、多職種との連携の強化
- ⑤ 安定した稼働・収益を目指す

【実践報告】2階・3階フロア

- ① 感染症や災害への対策強化
 - ・ 新型コロナウイルスに関しては令和5年12月にご利用者13名(みなし陽性1名含む)・職員7名の大規模クラスターが、令和5年9月にご利用者2名、令和6年1月にご利用者3名の感染があった。感染症5類に移行後も継続して感染症対策を実施。感染者が発生すればゾーニングを行う等の対応を早めに行い、隔離対応でのADLの低下を最小限に食い止める調整も行った
 - ・ インフルエンザに関しては令和5年10月にご利用者4名が発症した
 - ・ 新型コロナウイルス・インフルエンザともに感染症5類で世間での予防策が緩んできている。ウイルスを完全に遮断することは難しいため、施設内で発生した場合に迅速に対応出来るようにマニュアルの見直しを図った
 - ・ ご利用者に対しては、感染が確認された場合、最小限の隔離対応で済むように居室ごとの食事席・介助、居室ごとの入浴などを行っている
- ② ケアの内容を充実させ、利用者にとってよりよい環境を整える
 - ・ 施設内だけでは「ふるさとのやり方」が当たり前になってしまい、自分たちが行っているケアに対して疑問が持てない。外部研修へ参加させる計画は立案したが、人員不足もあり参加させられていない
 - ・ ご利用者ひとりひとりのペースにあわせた介護を行なうことを目標としているが、

日々の忙しさでどうしても業務中心になってしまっている。ICT を活用し、業務を効率化しご利用者と関われる時間を増やせるよう調整していく

- ・ 接遇チェック表等を作成したものの実施出来ていない。実施の頻度や実施方法を決め、職員に負担のない形で継続していけるような仕組みづくりが必要
- ・ 環境整備については意識づけのために行っている居室清掃は継続して行っている。お香の使用など臭いの面でも工夫はしている。ただ共用部の汚れについては、都度掃除をするなど対応出来るよう職員への意識付けが必要
- ・ 認知症に対する理解はまだまだ不十分。不適切ケアを予防する為にも、しっかり理解しその方に合った対応が出来るよう知識・技術を向上する必要がある

③ 職員の介護技術・知識の向上

- ・ マニュアルの見直しを図ったが、全体を見ると現状と一致していない箇所がある。次年度もマニュアルの見直しを都度行っていく
- ・ 基本的な介護技術について、しっかり指導出来る中堅職員層が薄くなっている。業務に支障ない程度の介護技術は習得できているものの、利用者一人一人に対応していけるかという点はまだ知識が足りない。その為マニュアルの見直しに合わせて手順等手引書的なものも作成する必要がある
- ・ 認知症や医療的ケア等の勉強会を行うも、内部だけのものになりなかなか専門的な知識を得るところにまで行けてない。外部研修になかなか参加出来ていないため、職員の定着率を上げる必要がある

④ ご家族や地域住民の方に愛され選ばれる施設づくり

- ・ 面会については月 1 回 30 分・直接面会出来るようにしている。多床室が主となるため一人のご利用者が感染すると蔓延してしまうため、現場がかなり慎重になっている。次年度（4 月）から少しずつ制限緩和し、コロナ禍前の状態に戻していく
- ・ 家族との連絡方法については、メールや LINE 等の媒体を用いている。電話は中々繋がらないこともあるので、ご家族の年齢などを加味して一番適性を思われるツールを選べるようにしていきたい。選択メニューやワクチンの接種希望等 GoogleForms を使用する継続するなど経費の削減にも努めたい
- ・ 地域行事にはなかなか参加出来ていない
- ・ インスタグラム等 SNS を積極的に活用し、幅広く情報提供を行った。

⑤ 悔いの残らない看取り介護の実践

- ・ 年間 12 名の方の看取り介護を行った。ご利用者・ご家族の要望に応じ、泊りも含めて付き添いや自由面会を行い、ご利用者・ご家族が思いを残すことのないよう「家族団欒」の時間をしっかりとっていただけた
- ・ 看取りに入る前のご家族との話し合いの機会もしっかり取り、意思確認だけでなくどのように最期を迎えられたいかも確認し、ご本人・ご家族に寄り添った看取りを行なうことが出来た。「ふるさとで良かった」というお言葉は、皆様より頂いている
- ・ 入浴は体調・体力が許す限りミスト浴で行った

- ・ シートを利用し、入居時の聞き取りは行っている。しかし定期的な聞き取りが出来ていない。ご家族の意向などを定期的に聞き取り、職員間で共有していくシステムが必要

【実践報告】 ショートステイ

① 感染症や災害への対策強化

- ・ これについては前述の通り

② サービスの質の向上

- ・ 出来る限り普段生活されている通りに施設内で生活出来るよう、過不足のない支援が出来るように利用前のアセスメントをしっかりと行った
- ・ 気持ちの良い空間で生活していただけるよう、住環境を整えた
- ・ 接遇アンケートに関しては実施できなかったため、次年度計画したい

③ 接遇のスキルを学び、身につける

- ・ 接遇の研修を行ったが、実際の現場では活かしきれていない。職員間のコミュニケーションが円滑に行われたい場面があり、こちらでも接遇マナーを活かしていく必要があると痛感している。次年度も継続して取り組んでいきたい

④ 利用者・家族、多職種との連携の強化

- ・ サービス担当者会議等、可能な限り参加させてもらい、関係機関との顔の見える関係を作れるよう努力した

⑤ 安定した稼働・収益を目指す

- ・ 入居希望の方がショートから利用されているため、ロングショートに移行し、一気に定期予約が空いてしまうことが度々あったため、ロングショートのベッド数を今年度より 8 床から 7 床に減らし、稼働するショートベッドを 5 床に増やし、利用者数を増やす努力を行った
- ・ 「ふるさとはいつもいっぱい」というイメージが近隣事業所に抱かれている為、空きが出る度に空床情報を流すなどして、新規受け入れも可能なことをアピールし、イメージの払拭に努めた。新規契約は年間で 40 件を超えた
- ・ 新規契約は増えているものの、利用に対して曜日や日数などの制限がある方が多くなってきている。急な空床をカバー出来るように、リピーターの増加を目指す

【総括】

今年度は 20 名(ロングショートステイ 1 名含む)の方の入れ替わりがあった。

ここ最近では入居申し込みをする段階で「入居できる施設」を探している方が多く、少し時間が経過すると他施設への入所が決定している。また、そのような問い合わせは病院からが多く、先が見えない状況で待っていただくことも出来ず、断らざるを得ない。タイミングが合わなければご利用者を逃がしている。また、垂水区内近隣に沢山の施設が建築されており、ご利用者の取り合いになっている状態。今後さらに利用者が減少する可能性が考えられるので、選ばれる施設になるよう様々な取り組みが必要。

そのためにも職員の定着率を上げ、知識・技術を向上させていく必要がある
令和5年度の年間稼働率目標は特養98.4%、ショートステイ101%としていた。実際には年度末に入院者が重なったこともあり、稼働率は特養98.2%、ショートステイ100%と若干下回ってしまう
次年度は達成できるよう年度当初より、しっかり計画をたてて対応していく

【神戸市への報告を必要とした事故】

報告件数：1件

(令和5年11月21日(火)3時20分発生)

ホールにて「ドン」と音がしたため様子を見に行くと、中央席付近で左膝を立てた状態で座っているところを発見。頭頂部と右足付け根から膝辺りをご自分で触り「ここが痛い」と言われ、左口角からも出血ある状態。夜間はベッド上安静で過ごしてもらい、係りつけ医に連絡し紹介状をもらってから掖済会病院を受診し、右大転子骨折、手術が必要なためそのまま入院となる

(改善内容)

夜間帯に気持ちが落ち着かずに居室やホールソファに誘導するもすぐに歩き回られる事が多い。夜勤者が巡回中で目を離した際に起こった出来事、ご本人の状態を小まめに確認、対応出来るよう職員間で情報共有を行った

【苦情件数】

苦情件数：0件